

【第5次津島市総合計画】施策評価シート(2023年度)

施策コード	41
-------	----

まちづくりの方針	4 交通・都市基盤・水環境
施策	1 都市計画
施策のめざす姿	人口が減少する中であっても、充実した都市機能が維持され、市民が安全で快適に暮らす、スマートでコンパクトな都市が実現しています。

まちづくり指標	現状値 (2019年度)	実績値					目標値	
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2025年度	2030年度
魅力あるまちの形成に満足している市民の割合(%)【都市計画課】	5.5	-	-				8.1	10.8
土地の有効活用と環境整備に満足している市民の割合(%)【都市計画課】	10.5	-	-				13.2	15.9
総人口に占める若年子育て層(20歳～39歳)の総数と割合(人・%)【都市計画課】	12,239 19.5	11,745 19.3	11,826 19.6				12,350 20.0	12,500 22.0

施策の方針	担当課	実績・成果
		今後の方向
1 快適でにぎわいある安全なまちづくり【重点】	都市計画課	賑わいあるマチナカに向けて、実現手法の検討として市場調査や社会実験を実施した。 引き続き、段階的に実践していく。
2 社会情勢の変化に対応したまちづくり【重点】	都市計画課	都市計画マスタープラン等に基づき都市計画道路の見直しの法定手続き、用途地域の見直しに向けた調査検討を実践した。 社会情勢の変化に呼応して、今後、20年先に向けた土地利用等に向けて、都市計画の諸制度を見直していく。

総括評価	施策のめざす姿の達成状況	市のまちづくり指針となる「津島市都市計画マスタープラン」と、既存市街地の質と価値を高める「津島市立地適正化計画」の目的達成に向けて、初年度は、この2つの上位計画のアクションプランとなる「津島駅周辺まちづくり構想(案)」のSTEP1の取組として、用地取得や手法検討として民間サウンディング調査や社会実験の開催などを実施した。また、名古屋鉄道やUR都市機構としてまちづくりの包括協定を締結することができ、今後、市民の期待に応えられるよう具体的な検討業務に着手していく。	評価 B
	施策のめざす姿の達成に向けて今後必要なこと	都市計画マスタープランや立地適正化計画の施策の推進として、まずは民間事業者との対話による市場調査、社会実験やトライアルサウンディングを実施して実現可能な事業スキームを見極めた。今後、PPP/PFIにて事業を実践していくほか、構想の最終目的は、行政は後方支援として民間主導によるまちづくりに向けて、社会実験を通して民間や市民を巻き込み、まちづくりの担い手としての利害関係人の輪を育てていく。	方針 継続